

高い技術と知識を持った「介護福祉士」を目指してみませんか？

順正高等看護福祉専門学校 介護福祉学科（平成24年4月開設）では、幅広い年代から集まった学生たちが、介護福祉士の国家資格取得を目指して日々勉強に励んでいます。その中には、学生アルバイトとして福祉施設で働きながら、学校で学んだ知識や技術を、実践を通して統合し、介護に必要な基礎的能力の向上に取り組んでいる学生もいます。



本校では、平成26年度入学生を募集しています。所定の科目を履修・単位修得し卒業することで、介護福祉士国家試験の受験資格が取得できます。（※国家試験に合格すると、介護福祉士の資格が取得できます。）

市内にお住まいの皆さんは、市のさまざまな支援制度（下記に記載）が活用できます。高い技術と知識を持った「介護福祉士」を目指して、高梁市の福祉を一緒に考えてみませんか。

【高梁市による学習支援制度が活用できます】

○高梁市私立学校入学奨励金

⇒入学金として当該私立学校に支払った額に相当する額が支給されます。

○高梁市介護福祉士養成奨学金貸付制度

⇒介護福祉士を養成し、地域福祉の向上を図ることを目的として、奨学金の貸し付けを行い、介護福祉士資格取得のための修学を支援しています。

【入学試験について】

今後の入試は、3月11日(火)までに出願できる1科目選択制の一般入試や、面談と書類選考によるAO入試を年度内まで実施予定です。受験に際し年齢制限などはありません。学科説明を希望する人は、個別に対応しますのでお気軽にお問い合わせください。

■問い合わせ 順正学園 入試広報室 (フリーダイヤル☎0120-25-9944)

成羽病院通信

■問い合わせ ☎423111

免疫力を高め冬の自己防衛を！

水分補給と免疫力アップで、インフルエンザや風邪の予防を！



*乾燥対策にはこまめな水分補給を！

冬場は空気の乾燥や暖房などで、体が知らず知らずのうちにウイルスの好む状態になっています。ウイルスの体内への侵入を防ぐため、手洗いやうがいに加え、意識して水分補給を行い、体や粘膜が乾燥しないように注意しましょう。なお、お茶に含まれるカテキンには抗酸化作用があり効果的です。

*腸内環境を整えて免疫力アップを！

免疫力機能が低下するとインフルエンザや風邪などの感染症にかかりやすくなります。さまざまな食品をバランスよくとることで、腸内環境を良好に保ち免疫機能を高め、感染予防に役立つとされています。免疫力を高める身近な食品として次のものが挙げられます。

- ・大根（ジアスターゼ）
- ・ヨーグルト（乳酸菌）
- ・梅干（クエン酸）
- ・ニラ（硫化アリル）
- ・鶏肉（たんぱく質）
- ・ニンニク（硫化アリル）

ワンポイントアドバイス

梅干をアルミ箔に包み、オーブントースターで、ちょっと焦げ目が付く程度に焼く。そのまま食べてもおいしいですが、お茶に入れて飲むとお茶に含まれているビタミンもとれて、さらに効果があります。疲労回復にも役立つので、毎日の習慣にするといいですよ！

山田方谷を語る 二

丸川松隠に学ぶ

5歳になった方谷は父親に連れられて新見の安養寺まで約20キロメートルの道を歩きました。そこは伯母が嫁いでいた寺で、下宿させてもらって松隠塾に入學するためでした。丸川松隠は幼い方谷を孫のように慈しみ、当初は世話と指導を彼の長男・慎齋に託しました。後年、方谷は受けた情愛を「父母の慈しみを超えていた」と回想しています。松隠は「ああ、こんなすばらしい児であるお前はどこから生まれてきたのだ。落ち着いて座り、小さい手に太い筆をかまえて、字を書くと竜が走るようだ」と感心しています。それを聞いた新見藩主関公が7歳の

方谷を呼び寄せて面前で書かせ、異例なことと人々を驚かせています。

9歳のとき、松隠塾に来た客が、方谷が勉強している姿を見て、「坊や、学問をして何になるんだね」とひやかすように聞くと、彼はすぐに、「治国平天下」と答えました。当時の学問といえば儒学、中心は朱子学で、「治国平天下」はその目標を端的に表す言葉です。朱子学では必ず学ぶ重要な書物として「大学」「中庸」「論語」「孟子」の四書を挙げています。その最初に学ぶ「大学」の教えは、まず明德を明らかにする。次に自分の心を良くし、正しい行いをする「修身」、心の正しい人は家人を良く指導できる「齊家」、家をよく整えられる人は国をよく治め「治国」、その人は世の中を平和にする「平天下」。この「治国平天下」のために勉強していると方谷は言ったのです。人々は驚き、「彼は神童だ」と評判になりました。しかし、彼は穏やかで謙虚な人でしたから、おごることなく学問に励みました。

さらに歴史の勉強もし、詩作も学んでいます。すでに13歳のとき中国の三国時代に活躍した諸葛孔明のことを詠んだ詩を作っています。それは漢詩の出来といえる書のすばらしさといえ、みごとなもの、松隠の娘婿の丸川竜達(りゅうたつ)が衝立に仕立

て、西阿知の丸川塾の玄関に置いていました。これは後になって三島中洲(なかつしゅう)が方谷の存在を知るきっかけとなったもので、中洲は方谷の牛籠舎(うしろうくし)で学び、松山藩にとっても重要な働きをする一人になります。

母をわずか14歳で見送った方谷は、思いに沈むことが多く、心配した松隠は方谷の気持ちを聞ききました。それに答えたのが「述懐(じゆわい) 思いを述べる」という題の漢詩です。以下は山田琢(たく)氏の訳です。

『父はわたしを生み、母はわたしを育てる
天は私を覆い、地は私を載せる
わたしは男の子だ、よく考えねばならぬ
ほんやり草木とともに枯れてはならない
世のためにつくす仕事は成しがたく
年月の流れ去るのは早い
わたしが柱によって愁いに沈んでいると
わたしを知る人は深く思ひすぎるという
流れはとまらず人は老いやすい
わたしの胸はふさがって重く
父母の恩と天地のめぐみは極まりなく
いつの日にもこの恩にむくいられることか』

これに対して松隠は「陽気の発するところ、金石もまたとおる。精神一到何事か成らざらん」と書いて与え、激励しています。松隠塾の1本の柱の頭のあたるところが黒ずんでいます。方谷がよりかかってよく物思いにふけていた所だといわれています。

父五郎吉(ごろうきち)は5歳の平人を抱え、家業の製油業(せいあぶ)も一人では無理なので、方谷を家

丸川松隠

新見領の西阿知に、丸川源太兵衛と松の長男として生まれ、名は一郎、号を松隠という。幼くして聡明、母に就いてよく学び、15歳で総社の龜山如水に朱子学を学び、聖人を目指す。後、母が物狂いとなるが、18年間孝行。関候より褒美の銀を頂き、年貢を免除され、幕府の孝義録に孝行者として載る。母の死後、33歳で大阪に出て中井竹山に学ぶ。学識に秀で幕府の招きを断り、新見藩に仕官し、藩学を教え、藩政でも活躍した。誠実一路の性格。方谷は66歳のとき、新見雲居寺の松隠の墓に参り、「日にそへてしげむくらをわけつつも君の教えの道は迷はじ」と詠む。



丸川松隠旧宅（新見市新見）